

第62回

難病・遺伝医学 セミナー

講演：千差万別なmRNA前駆体は如何にして
正確にスプライシングされているのだろう？

2025年

2月28日 **金** 9:30-10:30

順天堂大学7号館1F・カンファレンスルーム

講師紹介：前田 明先生

(藤田医科大学 腫瘍医学研究センター 客員教授 (名誉教授)

株式会社イクスフォレストセラピューティクス 特命フェロー)

座長・司会：岡崎康司 (難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

概要：多くのイントロンに分断されたエクソンを正しく認識し、エクソン同士を正確に結合させるmRNA前駆体スプライシングは、mRNAが蛋白質合成の設計図であるが故に、遺伝子発現での必須過程である。一方、イントロンの長さは、高等生物になるほど長くなり、ヒトではその頂点に達し、長短の差が4万倍にも達する。教科書に書かれているのは、研究に好都合な長さのイントロンに対応するスプライシングの仕組みである。極端な長さのイントロンに注目した研究から、新しいスプライシング分子機構が発見された。長いイントロンでは、イントロン内の多段階のスプライシングが広く使われていることがわかった。一方、短いイントロンにおいては、従来知られていなかった新しい因子が関与する、新しいスプライシング機構が発見された。

癌では、しばしばスプライスされた成熟mRNAに更に余計なスプライシングが起こる事実があるが、こんな破天荒なことは正常細胞で起こっては困る。その異常なmRNA再スプライシングの抑制因子が、成熟mRNAに結合するエクソン接合部複合体(EJC)であることを突き止めた。この発見は、トランスクリプトーム品質管理システムの根幹であると同時に、未知のスプライシング完了機構解明の鍵となっている。

申込方法：以下の申込フォーム・QRコードよりお申込みください。

※開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/VuWqTmN6h8Rp7XF7A>

本講演はハイブリッド形式 (現地 + Zoom)

にて開催いたします。

2月27日 (木) 17時締切



お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター/ゲノム診療センター

岡崎/加藤 (内線：2112)

共催：順天堂大学大学院医学研究科

順天堂大学大学院HP

